

平成29年度 第1回 環境基本計画評価検討部会

日 時 平成29年6月14日(水)午前10時～午前12時

会 場 職員会館かもがわ 第2会議室

出席者 小幡部会長, 板倉委員, 大久保委員, 小山委員, 中野委員

欠席者 窪田委員, 深尾委員

1 開会

- 挨拶 環境政策局 環境企画部部長

2 議題

(1) 「京都市環境基本計画(2016～2025)」における進行管理について

- 事務局から, 資料1に基づき説明した。

大久保委員: 平成26年度を基準値として, 目標値から年数で等分した値で各年度における目標値を設定するとのことだが, 年度ごとに少しずつ改善する指標もあれば, 数年掛けて大きく伸びる指標もある。指標ごとに評価方法を検討しなくて良いのか。

事務局: 本計画の進行管理については, 市民の皆様に, より分かりやすいものとなるよう, 最終の目標値から按分して, 各年度における目標値を設定している。

大久保委員: 最終の目標値から按分して各年度の目標値を設定してしまうと, 毎年の進捗は見られなくても, 目標年度に達成できるように進めている施策が評価されないのではないか。そうしたものについては, 市民が単年度の評価を見た時に, 進捗していないように感じると思う。

小幡部会長: 京都市の政策評価ではどうしているのか。

事務局: 本市の政策評価においても, 按分しているものもあれば, 各事業の実施状況に応じて, 年度ごとに目標設定を行っているものもある。

小山委員: 毎年, 平成26年度を基準値とするのか。例えば, ある年度で大きく目標値を上回ったとしても, 基準値は変更しないのか。

事務局: 今回の案では, 目標を大きく上回ったとしても, 各年度の目標値を見直さずに, 一律に設定することとしている。

大久保委員: 計画の見直しの際に, 例えば, 目標を下回った指標だけでも, 目標設定を変更するという方法もある。

板倉委員: 指標に対する評価方法については, 同じような部会でよく議論になるところである。按分するしかないのではないか。

（２）環境指標による点検・評価結果のイメージについて

- 事務局から、資料２に基づき説明した。

大久保委員： アンケートの実施に当たっては、何かデータ等を示したうえで回答してもらっているのか。また、アンケート調査では、「あなたは〇〇に取り組んでいますか？」という聞き方をすることが多いが、本計画の主観的指標では、「あなたは〇〇と感じますか？」という聞き方になっている。主観的指標は分析に当たってどのように活用することを想定しているのか。

小幡部会長： 数値で良いか悪いかを判断する客観的指標だけではなく、市民が環境に関する現状をどのように評価しているかも知る必要があるということで、主観的指標を新たに取り入れた。客観的指標と主観的指標を比較し、今後改善していくために必要な検討を行う。アンケートは特にデータ等を示さず回答してもらっている。

板倉委員： 事前にデータを示すとバイアスがかかるのでやめようという議論になった。主観的指標は、率直な市民の感覚を知るためのものである。客観的指標と主観的指標を比較して、評価に差がある場合には、そこに何らかの課題があるとして、京都市の環境行政に何が不足しているのかを分析する。

大久保委員： アンケート調査の結果について、男女別や年齢別、環境保全に熱心に取り組んでいる人と取り組んでいない人で分けるなど、クロス分析での評価はできないのか。

事務局： アンケート調査については、初の試みとしてとりあえず実施したものである。今後、必要に応じてクロス分析も検討していきたい。

大久保委員： アンケート調査の対象はどのように選定しているのか。

事務局： インターネット調査会社に委託し、住民基本台帳の人口構成比に沿う形で、市内に住む1,000人のモニターから回答を得ている。また、性別、年齢、未婚、家族構成についても聞いている。

小幡部会長： 「徒歩や自転車、公共交通機関優先の取組が年々進んでいると感じるか」という主観的指標に対しては、「そう感じる」と回答した割合が3割程度であるが、補足的に設定した「日頃から、徒歩や自転車、公共交通機関を優先した移動手段を取っていますか」という質問では、8割の人が「取り組んでいる」と回答している。今後、これらのアンケート調査結果について分析を進めていく必要がある。

事務局： 今後、分析を進め、最終的に作成する年次報告書では、考察内容も記載していく。

小幡部会長： 年次報告書には、客観的指標と主観的指標を一枚にまとめたような総括表があれば良いと思う。

大久保委員： 主観的指標と客観的指標の評価がかい離しているものもあると思うが、そういった部分を示すことが必要であると思う。アンケート調査については毎年同じことを聞くのではなく、一部の質問項目を見直していくことも一つの手法である。また、アンケート調査結果について、なぜそのように市民が感じているのかを知

る機会として、市民との対話の場を設けることも考えられる。

小山委員： 主観的指標の評価を a, b, c, d, e で示しているが、評価区分の基準値は一般的なもののなか。例えば、資料 2 の 14 頁を見ると、「学校や社会、地域で環境学習や環境保全活動の機会が増えていると感じるか」と「環境に配慮したライフスタイルが広がっていると感じるか」のアンケート結果は、グラフ上ではあまり変わらないように見えるが、評価を見ると前者が b、後者が c の評価で、少しの差で評価が分かれてしまっているように思う。

事務局： 主観的指標の評価方法に当てはめると、前者は 0.105 となり b 評価、後者は 0.011 となり c 評価となる。評価区分の基準値をどこに置くのが妥当であるのかについては、今後、経年的な動向も見つつ、精査していく必要があると考えている。

小幡部会長： 今回は、この評価基準で実施してみるということで良いのではないか。

板倉委員： 主観的指標の「多様な生きものが生息する良好な自然環境が保たれていると感じるか」については、市民の実感度が低くなっている。私自身も、自然観察会などを実施しているが、参加された方には、生物の多様性を感じてもらっている。今後、活動を浸透させていく必要を感じる。

大久保委員： この指標については、回答者の住む場所にもよるのではないか。例えば、近所で新しいマンションが建つことで緑が減ったと感じる場合もあると思う。

小幡部会長： アンケートの際に回答者がどこの区に住んでいるかは聞いていないのか。

事務局： 京都市内に在住していることは確認しているが、どこの区に住んでいるかまでは聞いていない。また、各区からバランス良く回答を集めることができるかは、業者のモニター数も限られるため、難しいところがある。

大久保委員： インターネット調査会社がノウハウを持っている可能性もあるので、聞いてみてはどうか。

小山委員： 年次報告書の見せ方について、資料 2 でアンケートの回答結果を棒グラフで表しているが、一般的には帯グラフや円グラフの方が見やすいと思う。

中野委員： 他の委員の方も発言されていたが、主観的指標については、地域によって市民感じ方は異なると思う。

小幡部会長： これまでの意見をまとめると、客観的指標の評価については、平成 26 年度の実績を基準として最終的な目標値を按分し、各年度の目標値を設定する方法で評価する。また、主観的指標の評価基準については、今後事務局の方で検討していくということで良いか。年次報告書の作成に当たっては、客観的指標と主観的指標のかい離している部分を分析のうえ考察を加えることとし、数値だけの評価にならないようにするということがお願いしたい。そのほか、何か御意見はあるか。

事務局： アンケート調査の質問項目について、今年度の調査に活かすため、御意見があれば伺いたい。

大久保委員： 「多様な生きものが生息する良好な自然環境が保たれていないと感じる理由は何か」を聞いた補足質問について、最も回答数が多いのが「開発等による自然の

減少」であったことは、興味深いと感じる。マイバッグについては取組が浸透していきいているので、次回は食品ロスに関連した質問項目を行うのも良いと思う。

小幡部会長： ごみに関する補足質問が他と比べて多いので、減らしてもいいのではないかな。「空気と河川の水がきれいに保たれていると感じるか」の補足質問については、空気と河川を分けて質問を行う必要があると思う。また、生物多様性に関する主観的指標の結果があまり良くないので、今後の改善に活かせる新たな質問項目を設定することを検討してはどうか。

大久保委員： 省エネルギーやごみ減量については、自分自身は実際に「取り組んでいる」と回答している人が多いのに対し、「環境に配慮したライフスタイルが広がっていると感じるか」の質問では、「どちらとも言えない」と回答している人が多い。自分自身は取り組んでいるが、周りの人はやっていないと思っているということか。

小山委員： 自分自身の行動について聞いている補足質問では、「どちらとも言えない」の項目がなく、全く取り組んでいないというわけではないので、このような回答結果になったのではないかな。

事務局： いただいた御意見を踏まえ、次回の部会で、年次報告書の案をお示ししたい。

3 閉会